



おじさんズ通信

2022年8月号(No21)

発行元：登別市新生町4丁目緑風舎

発行者：おじさんズ3号

Web

<http://www.ne.jp/asahi/takanet/mori/>

紙の上

山ノ口 獏

戦争が起き上がると

飛び立つ鳥のように

日の丸の翅をおしひろげそこからみんな飛び立った

一匹の詩人が紙の上にあて

群れ飛び日の丸を見上げては

だだ

だだ と叫んでゐる

発育不全の短い足へこんだ腹持ちあがらないでつかい頭

さえづる兵器の群れをながめては

だだ

だだ と叫んでゐる

だだ

だだ と叫んでゐるが

いつになったら「戦争」が言えるのか

不便な肉體

ともる思想

まるで砂漠にゐるようだ

インクに濁いたのどをかきむしり熱砂の上にすねかへる

その一匹の大きな舌足らず

だだ

だだ と叫んでは

飛び立つ兵器をうちながめ

群れ飛び日の丸を見上げては

だだ

だだ と叫んでゐる

巡りくる

8月15日

社宅物語 1

古民家カフェの梁

古民家を改装したカフェが6月下旬、登別市富士町にオープンしたとの紹介記事が地元紙に載っていて、早速、お邪魔しました。

かつて「富士鉄社宅」と呼ばれていた長屋がそれです。元々は1棟2軒の平長屋の1軒分を喫茶店に造り変えたとか。エンジニアだったという店主さんは、自ら設計・製作した直火式焙煎機で豆を煎り、自信の一杯を淹れては来店客をもてなしています。

真空管式アンプや英国で使われたスピーカーを通して、ジャズの名曲が店内に流れ、大人のカフェを演出

していますが、さらに目を引いたのが天井に渡された9本の太い梁＝左の写真＝。聞くと、市内片倉町の古民家を解体した際に大工さんが保存しておいたものとか。

片倉町と聞いて、すぐに思い浮かんだのが明治3

年に幌別村に入植した仙台藩支藩片倉家の第13代



当主片倉景光です。家臣団の一部も近くに居を構えていました。

もしかして、景光宅を解体した時に残しておいた梁か？ それとも、片倉町に今も住む旧臣の末裔宅から出たものか？

詳しくは聞きませんでした。このマチの住宅史を彩る家屋の内側に、さらに古い歴史の一部が付け加えられ、目に見えるカタチで残されたことに、深いあじわいのコーヒーとともに至福のひとつをいただきました。以下、お店情報です。

COSSETTE COFFEE (登別市富士町4丁目15-2)

Web <https://cossette.theshop.jp/>

社宅物語 2

社宅を歴史遺産に

この富士鉄社宅街は戦時中の昭和16年から18年にかけて、原野だった字来馬(現富士町)に出現しました。当時は日本製鉄輪西製鉄所社宅と呼ばれ、総戸数は1,400戸。会社は戦後の財閥解体で昭和25年、富士製鉄と改め再スタートしました。

その社宅街に小学校3年生ころ(昭和32年)まで住んでいましたが、社宅長屋と聞いてすぐに思い出すのが、水汲み仕事です。

社宅の各戸には、まだ上下水道はなく、共同水汲み

